

大阪府箕面市における 2020 年のアカギカメムシの記録

植村 貴¹⁾

1. 概要

アカギカメムシ (*Cantao ocellatus*) は、キンカメムシ科の一種で、南西諸島や熱帯域に生息する南方系のカメムシである。本種は飛翔性が高く、これまでも九州、四国などで確認されているが、2020 年は本州各地をはじめ北海道でも多数確認されている。大阪府箕面市もその例外ではなく、2020 年 8 月から 2021 年 6 月にかけて箕面市環境クリーンセンターにおいて、51 頭のアカギカメムシを採集したことから、その詳細を報告する。

2. 採集場所

箕面市環境クリーンセンター（以下、「当センター」という）は、明治の森箕面国定公園にほど近い山あい（標高約 330m）に位置するごみ処理施設である（図 1）。当



図 1 箕面市環境クリーンセンター



図 2 外気の流れと冷却ファン

センターには冷却用の巨大なファンが複数設置されており、1 日中外気を強く吸い込み続ける構造となっていることから、昆虫が吸い込まれやすいという特徴がある（図 2）。今回確認したアカギカメムシの多くも、このファンの設置エリア内で発見したものである。

3. 採集の経過

最初にアカギカメムシを発見したのは 2020 年 8 月 31 日のオス 1 頭（死骸）であった。その後 1 カ月半経過した 10 月 14 日にオス 2 頭（死骸）、10 月 22 日にオス 1 頭（死骸）を発見するなど、10 月になって発見頻度が上昇した。この時点までの発見個体 4 頭はすべてオスの死骸であったが、10 月 25 日に市内在住の方から「アカギカメムシを捕獲した」との連絡が入った。捕獲個体を確認したところメスの生体であり、この個体はご厚意により譲っていただいたことから、飼育観察することとした。その後 10 月 27 日に当センターにて突然 5 頭の生体が出現（オス 4 頭、メス 1 頭）し、以後継続的に生体が観察されるようになった。10 月中には数頭の生体を飼育観察用に捕獲したが、その他の個体については、生体であれば確認日と性別、前胸背板の棘の有無を記録するに留め、死骸であれば採集することとした。死骸の採集は 2021 年 6 月まで続いたが、生体を最後に確認したのは 12 月 8 日（メス）であった。なお、飼育観察していた個体は 12 月 5 日までにすべて死亡した。

4. 採集個体の特徴

当センターにおけるアカギカメムシの採集個体 51 頭（A から AY）の写真を図 3 に示す。また、採集状況を表 1 に示す。51 頭の内訳は、オス 30 頭、メス 21 頭であり、オスの比率が高い。体長（頭楯先端から小楯板末端まで）は、オスは平均 17.3mm、メスは平均 18.8mm であり、メスの方が大きい傾向がある。前胸背板の棘の有無については、オスでは 30 頭中 17 頭が棘あり（57%）、メスでは 21 頭中 7 頭が棘あり（33%）であり、オスに棘あり個体が多かった。また、オスとメスの出現時期を比較すると、オスが早く、メスが遅い傾向がある。なお、出現

¹⁾ Takashi UEMURA 箕面市 市民部 環境クリーンセンター

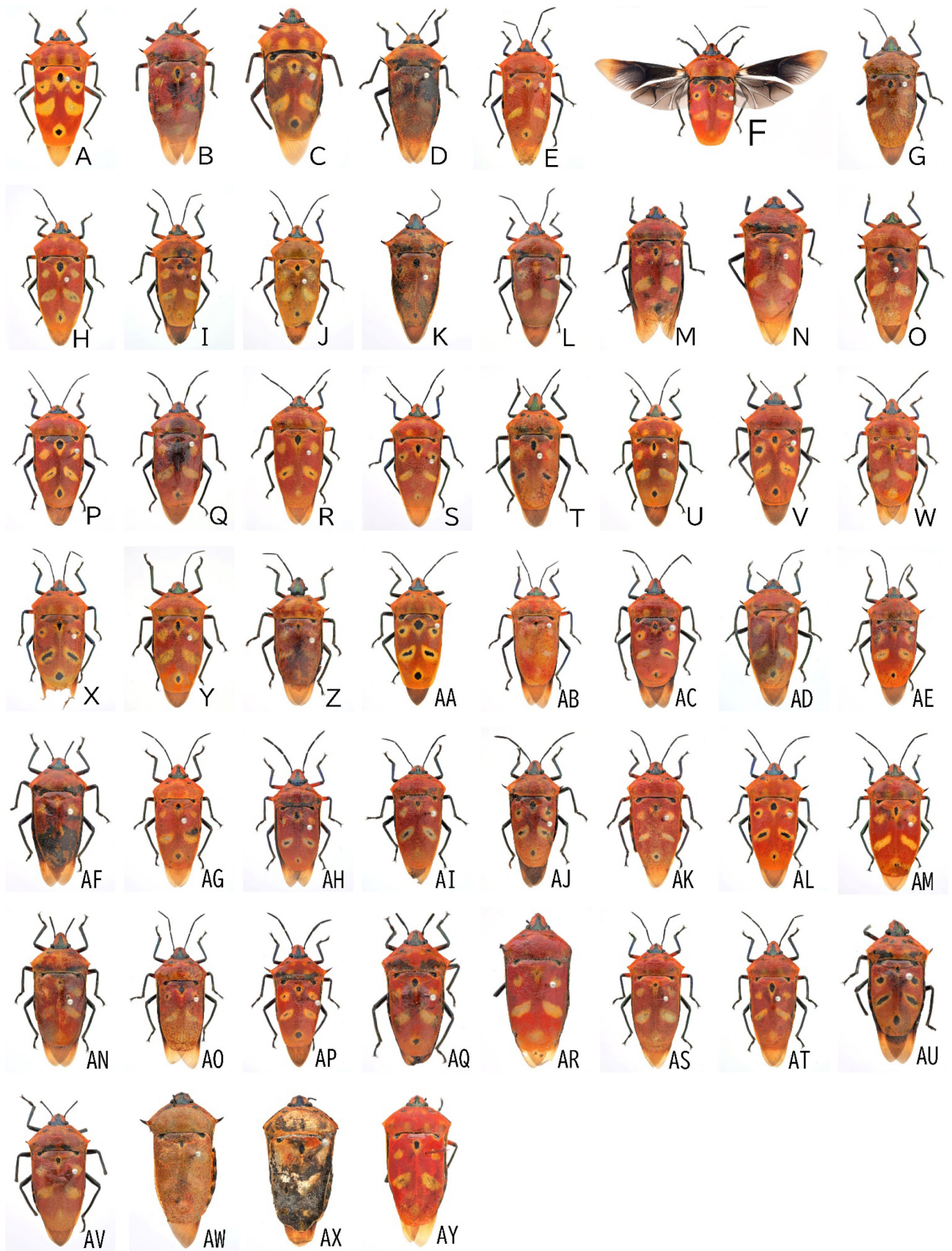


図3 採集したアカギカメムシ

表 1 採集状況

年月日	オス	メス	合計
2020/08/31	A(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/14	B(死骸, 棘有) C(死骸)	--	2(1)
2020/10/22	D(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/25	--	E(生体, 棘有)注	1(1)
2020/10/26	F(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/27	G(生体) I(生体, 棘有) J(生体) K(生体, 棘有)	H(生体)	5(2)
2020/10/28	L(死骸) M(死骸) P(死骸, 棘有)	N(死骸) O(死骸, 棘有)	5(2)
2020/10/29	--	Q(生体)	1(0)
2020/10/30	T(死骸) U(死骸) V(死骸, 棘有)	R(生体) S(死骸) W(死骸)	6(1)
2020/11/04	Y(死骸, 棘有) Z(死骸, 棘有)	X(死骸)	3(2)
2020/11/05	AA(死骸, 棘有)	AB(死骸, 棘有)	2(2)
2020/11/09	AC(死骸) AE(死骸, 棘有)	AD(死骸, 棘有)	3(2)
2020/11/12	AF(死骸)	--	1(0)
2020/11/17	AH(死骸)	AG(死骸)	2(0)
2020/11/18	AI(死骸) AJ(死骸, 棘有)	--	2(1)
2020/11/19	--	AK(死骸) AL(死骸, 棘有)	2(1)
2020/11/20	--	AM(死骸, 棘有)	1(1)
2020/11/25	AN(死骸)	AO(死骸)	2(0)
2020/11/27	AP(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/02	AQ(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/03	--	AR(死骸) AS(死骸)	2(0)
2020/12/09	--	AT(死骸)	1(0)
2020/12/17	AU(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/18	AV(死骸, 棘有)	--	1(1)
2021/02/08	--	AW(死骸, 棘有)	1(1)
2021/05/07	AX(死骸)	--	1(0)
2021/06/25	--	AY(死骸)	1(0)
合計	30(17)	21(7)	51(24)

(カッコ) 内数値は棘有り個体数.
注) 市内発見個体.

時期と棘の有無には明確な関連は見られなかった.

表 1 の採集個体 51 頭のうち 43 頭は死骸の採集であるため, 出現時期と採集時期にはずれが生じている. 特に 2021 年に入ってからの採集個体は, いずれも死後かなりの日数が経過しているように思われる個体であった.

そこで, 死骸の採集と並行して記録していた生体の観察結果を表 2 に示す. なお, 当センターの冷却ファン付近に吸い込まれた昆虫は, 外気の流れに逆らって再びセンター外へ脱出することは容易ではないことから, 同一個体を複数日にわたって記録している場合が多数含

表 2 生体確認状況

年月日	オス	メス	合計
2020/10/25	--	1(1)注	1(1)
2020/10/27	4(2)	1(0)	5(2)
2020/10/28	1(0)	--	1(0)
2020/10/29	2(0)	1(0)	3(0)
2020/10/30	1(0)	1(0)	2(0)
2020/11/02	1(0)	1(1)	2(1)
2020/11/04	1(0)	1(1)	2(1)
2020/11/05	1(1)	--	1(1)
2020/11/06	2(1)	3(2)	5(3)
2020/11/09	1(1)	1(1)	2(2)
2020/11/11	1(1)	--	1(1)
2020/11/12	1(1)	--	1(1)
2020/11/16	1(0)	2(0)	3(0)
2020/11/17	2(1)	1(0)	3(1)
2020/11/18	1(1)	2(1)	3(2)
2020/11/19	--	1(1)	1(1)
2020/11/20	--	1(0)	1(0)
2020/11/25	1(1)	1(0)	2(1)
2020/11/26	1(1)	1(0)	2(1)
2020/11/27	--	1(0)	1(0)
2020/11/30	--	1(0)	1(0)
2020/12/01	--	1(0)	1(0)
2020/12/02	--	1(0)	1(0)
2020/12/04	--	1(0)	1(0)
2020/12/07	--	1(0)	1(0)
2020/12/08	--	1(0)	1(0)
合計	22(11)	26(8)	48(19)

(カッコ) 内数値は棘有り個体数.
注) 市内発見個体.

まれていることに注意する必要がある. 同一個体を複数回記録しているため, 確認総数を議論することは意味をなさないが, 10 月末から 12 月初にかけて継続的に生体を確認している.

アカギカメムシはアカメガシワ等集まり, ときに集団を形成することが知られている. 当センター敷地内のアカメガシワの観察も続けたが, アカギカメムシは発見できなかった. 今回の採集個体及び観察個体は市内で捕獲された個体 E を除き, すべて当センター施設内または施設外周道路上で発見したものである.

表3 大阪市の気温の比較

年月	平均 (°C)	日最高 (°C)	日最低 (°C)
2020年8月	30.7 (29.0)	35.7 (33.7)	27.1 (25.8)
2020年9月	25.8 (25.2)	30.0 (29.5)	22.8 (21.9)
2020年10月	18.7 (19.5)	22.9 (23.7)	15.1 (16.0)
2020年11月	14.7 (13.8)	19.0 (17.8)	10.9 (10.2)
2020年12月	8.7 (8.7)	12.5 (12.3)	5.1 (5.3)

・数値は気象庁のデータによる。
 ・(カッコ)内は平年値, 統計期間は1991-2000年。

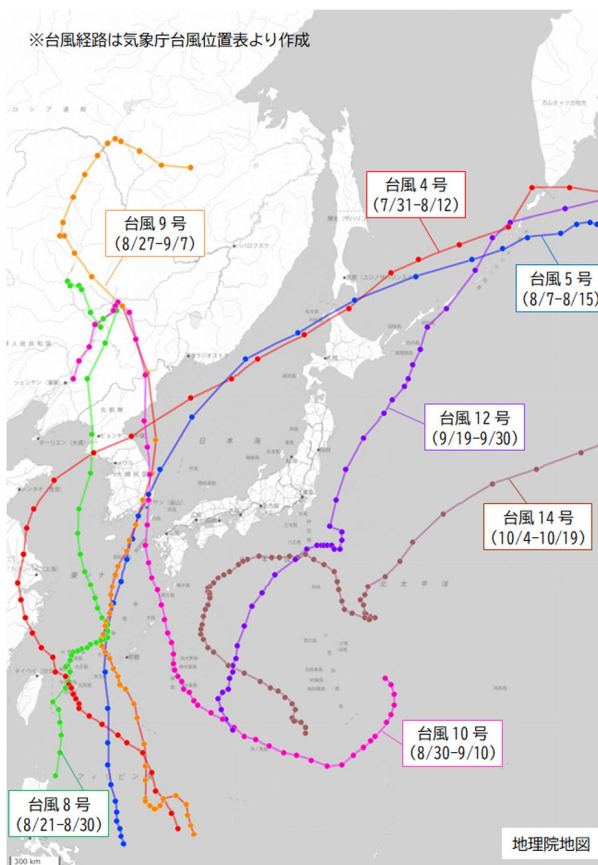


図4 2020年に日本に接近した台風

5. 確認時期と気象条件について

2020年は当センターに限らず、全国的にアカギカメムシが確認されている。アカギカメムシには「温暖な地域に生息する」「高い飛翔性を有する」という特徴があることから、2020年における気温と強い風(台風)の2点について整理を行ってみた。

表3には2020年8月から12月の大阪市の平均気温と平年値の比較を示す。平年より気温が高い月が多いが、アカギカメムシが多く見られるようになり始めた10月は平年よりも気温が低い。

図4には2020年に日本に接近した台風の経路を示

す。2020年は台風は一度も日本本土へ上陸していない。アカギカメムシが多く見られるようになり始めた10月には台風14号が接近しているが因果関係は不明である。なお、近畿地方では2020年10月23日に過去最早タイ記録となる木枯らし1号が観測されている。何らかの理由で近畿地方にたどり着いたアカギカメムシが、木枯らし1号の強い風に乗って当センターへ飛来した可能性は十分に考えられる。なお、アカギカメムシの飛来と気象条件の関係性についてはさらなる調査及び分析が必要だと考える。

6. 最後に

当センターは市内小学校の社会見学で毎年小学生が来場するなど、ごみ減量や自然環境に関する啓発施設でもある。今回採集したアカギカメムシは標本として施設内にて保管・展示することとした。

当センターは1日中外気を強く吸い込み続ける構造を持つことから、多くの昆虫が集まって来る。2019年夏には当センター内で外来種フェモラータオオモボトハムシも発見している。このように、当センターはその特徴から、周辺の昆虫相の変化をいち早く察知するアンテナとしての役割にも期待できるため、今後も継続的な活用が必要であると考え。なお、当センターでは2020年9月12日にアカギカメムシと同じキンカメムシ科であるオオキンカメムシのメス1頭(生体)を採集したことも付記しておく。

7. 参考文献

堀 繁久・野村 昭英, 2021. 2020年秋に北海道へ飛来及び漂着したアカギカメムシ. 北海道博物館研究紀要, 第6号.
 八木 剛, 2020. 2020年に10件得られたアカギカメムシの発見情報. きべりはむし, 43 (2): 48.